

第1回勝山市立中学校再編準備委員会 議事録

(1) 日 時：令和5年4月27日（木）午後7時より、（教育会館 第1研修室）

(2) 参加者：準備委員21名（1名欠席）、事務局7名、報道2名、傍聴10名

(3) 内 容

- ①教育長あいさつ
- ②委員委嘱及び委員長・部会長の選出
- ③委員長。部会長あいさつ
- ④協議：勝山市立中学校再編準備委員会開催要綱（案）
- ⑤資料説明及び意見交換
 - ・経緯及び今後の方向性
 - ・各専門部会について
 - ・各委員から一言

①《教育長あいさつ》（省略）

②《委員委嘱及び委員長・部会長の選出》

- ・委嘱書は机上に配布。
 - ・設置条例に従い委員長を互選。
 - ・準備委員会委員長に清川 亨氏（福井大学大学院連合教職開発研究科教授）、
 - ・総務部会長と学校運営部会長に清川 亨氏、
 - ・PTA部会長に木下克則氏（勝山高校同窓会長）、
 - ・施設整備部会長に西本雅人氏（福井大学学術研究院工学系部門准教授）
- を選任。

③《委員長・部会長あいさつ》（省略）

④《協議》

勝山市立中学校再編準備委員会開催要綱（案）

事務局 ・開催要綱（案）の説明。（ワーキングチームの委員に小学校教職員を追加）

委員長 ・皆様ご質問やご意見はどうか。特にならなければよろしいか。

では特にご質問ご意見はないということで案は認められた。

（全会一致で可決）

⑤《資料説明及び意見交換》

（経緯及び今後の方向性）

委員長 ・次は資料説明及び意見交換に入りたいと思う。これまでの経緯及び今後の方向性について今までいらっしゃった方でよくわかっていると思うが、私も含めて初めてという方も多いと思うので、事務局から説明をお願いしたい。

事務局 ・これまでの経緯及び今後の方向性ということで資料7を基に説明をさせていただきたい。画面には資料7の1ページ目を映しているが、お手元にも同じ資料があり、この資料7を順番に説明をさせていただくが、少し早く進む部分があるので画面を中心にいただければありがたいと思う。まず勝山市立中学校再編計画の大きな柱が2つあり、この1と2である。3中学校を1校に統合するということとその新中学校を勝山高校の敷地内に建設するという2つ。勝山市の学校再編については、平成16年に設置した勝山市の小中学校の望ましいあり方検討委員会から検討が始まった。この検討委員会では、小学校は3校に、中学校は1学年4学級以上の学校に統合することが望ましいという方向性が出され、その後各地区での座談会やPTA 連合会などとの意見交換を通して、小学校については保護者・地

域住民の意思を尊重して対応することとし、中学校再編については小学校に先行して進め、平成30年に勝山市立中学校再編検討委員会を設置することとなった。この検討委員会の答申が令和元年に取りまとめられ、この答申を踏まえて昨年の3月に勝山市立中学校再編計画を策定した。この再編計画を進めるために昨年度から再編準備委員会を設置し、昨年度は1年かけて新中学校建設の元となる勝山市立中学校建設基本計画をご検討いただき、この3月に策定したところ。この2つの計画は本日の資料5と資料6にあたるので、今回の会議までに時間のある時にお目通しいただければありがたい。

- ・次に中学校再編計画の背景や方向性について説明をさせていただく。このグラフは、勝山市の各年度の出生数の推移のグラフ。20年前は年間200人前後生まれていたものが、令和3年度では109人、昨年度は117人とほぼ半分に減少しており、勝山市の少子化が進行している状況を表している。同様に中学校の生徒数の推移だが、昭和49年度には1609人と最高の人数だったが、昨年度は3中学校合わせて516人と、最高の時の3分の1以下という数字になっている状況。また、今後の学校教育に目を向けると、現在の子どもが生きていく令和の時代は生活や社会が加速度的に変化する予測困難な時代と言われており、今後の勝山市の教育を考えるときに、少子化が進む中でどのような教育を行うか、令和の時代の教育に求められることをどのように実現していくかを考える必要がある。この令和の時代の教育に求められていることは子どもを主語とする学校づくりで、その中で生徒が自ら学びに向かう主体性、課題解決能力など知識を活用する力、社会性、コミュニケーション能力など、多様な人々の中で人間関係を構築する力などを身につけてほしいと考えている。また、少子化で学校規模が小さくなるときめの細かい丁寧な教育ができるというメリットがあるが、それだけでは十分ではなく、さまざまな課題も生じてくる。中学校3年間はしっかりした社会性や人間性を身につけていくべき大事な時期であり、多様な生徒がいる集団の中で切磋琢磨しながら学習や体験活動に取り組む環境を子どもたちに提供することが必要と考えている。
- ・これまでの内容を踏まえて、新中学校が目指す教育について説明を進める。まず、少子化が進行する勝山市の今後の教育の在り方を考えた時に、誕生から18歳成人に至るまで勝山市の子ども全員を市民総がかりで切れ目なく支援する新しい教育システムを構築していくことが必要と考え、そのために新中学校を勝山の教育の中核としてジオアリーナや長山グラウンドを教育施設としても活用し、勝山高校の敷地内に建設することで中高生がともに学び交流する新しい文教ゾーンを整備したいと考えている。また、今後の教育では同じ学年の生徒だけでなく多様な人々と交流・共同する学習が重要であることから、新しい教育環境の中で新中学校と勝山高校に連携型中高一貫教育を導入して、中高が近接することで子どもの主体性を支援する教育の効果をこれまで以上に向上させたいと考えているところである。また、福井県では中学校の1学級の人数を独自に32人としていることから、1学級の人数は現在と同様に少ない人数で編成するとともに、中学校を統合することで1学年5学級程度の学校として、さまざまな集団活動等を通して令和の時代に生きる子どもたちに必要な資質・能力の育成を目指したいと考えている。新中学校が目指す学校像として、この4つを掲げている。また、目指す生徒像として、はこの4つを掲げていると

ころで、例えば、特に4番目の自分らしい生き方を考え、将来をデザインする生徒ということで、キャリア教育にもしっかりと力を入れていきたいと考えているところである。

- ここで、新中学校と勝山高校に導入する連携型中高一貫教育について簡単に説明させていただく。この制度は市立や町立の中学校と地元の県立高校の間で連携教育を実施する制度で、県内ではすでにご覧の3地域で実施している。ただ、高志中学校と高志高校は併設型という中高一貫教育で連携型とは異なるものである。中高一貫教育といっても、基本的には中学校、高校はそれぞれ独自に授業など教育活動を行っていて、中学生と高校生がいつも一緒に活動するというのではない。中学校卒業後の進路選択も自由である。中高が連携することによって教育効果が高くなると考えられるものについて、連携を進めるものである。ただし現在連携型中高一貫教育を実施している県内の3地域では、中学校と高校の立地場所が離れているので、生徒や教職員が行ったり来たりするのに時間がかかるが、勝山市では高校と中学校が近接することになるので、必要に応じてすぐに連携や交流活動が行えるというメリットを生かし、教育効果を高めることができるのが特徴。
- 次に中高連携を生かし新中学校で取り組んでいきたい特色ある教育内容だが、ここでは簡単に申し上げるので、後ほど資料のご確認をいただきたい。まず、このページにあるように探究的な学習に力を入れていきたいと考えている。また、ライフデザインタイムという時間を設けて、中学校3年間を通したキャリア教育を生徒が主体的に学ぶ時間として充実させていきたいと考えている。さらに、学校行事や生徒会活動、部活動などは生徒が企画運営するなど、生徒の主体性を育成していきたいと考えている。また、中学3年のときには数学、英語など学力差が付きやすい教科において、生徒全員を対象にして、中学校と高校の教員によるティームティーチングの授業を定期的実施し、高校での学習に見通しを持たせ、学習意欲の向上を図りたいと考えている。また、校内のICT環境を充実し、オンラインを積極的に活用するなど、タブレット・端末を文房具として学習に活用していきたいと考えている。
- 次に新中学校の校舎や施設・設備等について現在までの検討状況をご説明する。この写真は勝山高校を空から見たものである。新中学校の校舎は、グラウンドの北側、画面では青い四角い部分に建設する予定である。これは鳥瞰図だが、長山公園には今後桜の木をさらに整備し、学校から長山公園グラウンドまでのアクセスを良くするために階段を作るなど文教ゾーンとしての整備を進める予定。中学校の校舎には、教職員の部屋のほか、相談室や通級指導室などの部屋を整備するとともに、多目的室やメディアセンターなど多様な学習空間の整備を考えている。理科室や技術室、音楽室、美術室などは、高校の特別教棟に設置をする。一部中高が共用する教室があるが、これは中学校と高校の授業時間数を踏まえて、それぞれ単独に気兼ねなく使用することができることから共用とするものである。体育館についても共用するが、中高が使用する際はそれぞれ単独で使うことができる見込み。また、ジオアリーナや長山グラウンドも必要に応じて授業や部活動で使用する予定で、現在の中学校より恵まれた環境で活動することができると考えている。また、高校の特別教棟や第一体育館は、県がリノベーションを計画しており、新中学校開校の時にはリニューアルさ

れた環境で使用することができる予定となっている。この図は、新中学校の校舎について検討したものの一つ。あくまで検討例なので、このとおり、設計するものではない。高校とは渡り廊下で接続をする。これは2階の例だが、黄色い部分が新しい学習スペースとしての多目的室やメディアセンター。この例では、勝山高校の生徒玄関の上に2階の部分として多目的室を配置している。これは3階の例だが、多目的室やメディアセンターの上部を吹き抜けとして開放的な空間とした例となっている。この図は多目的室のイメージ。文字通り多目的室なので、この図は部屋を区切ってそれぞれ違う学習活動をしている様子だが、この仕切りをすべて取り払えば、学年集会など大きな活動もできる部屋となっている。また、これはメディアセンターのイメージ図。メディアセンターというのは、多機能型の図書館というふうにご理解いただければと思うが、単に図書を借りたり読んだりするだけでなく、個別の学習スペースやグループ学習を行ったり、プレゼンテーションを行ったりする機能を合わせ持つ部屋とお考えいただければと思う。

- 次に、ジオアリーナと学校を接続する地下通路のイメージ図。ジオアリーナは授業や部活動で使用するほか、スクールバスの発着場としても考えている。この地下通路を通ることによって、休み時間などの短い時間でも学校とジオアリーナの移動が可能となる。地下通路の断面図だが、通路の横幅は5メートルから6メートル程度、高さは3メートル程度のものを想定している。参考までに右上に赤い字で示したが、勝山ニューホテルの近く旭町のところに地下通路があるがこの通路の幅が3メートル、高さ2.4メートルのもので、今こちらで考えているジオアリーナと学校をつなぐ地下通路は、幅については約2倍の横幅と考えている。その中では、上足ラインと下足ラインをそれぞれ設けて、上足ラインではズックとかスリッパなど内履きのままで学校とジオアリーナが行き来できるようなことを可能としたいと考えている。また、大雨に備えた浸水対策だとか、防犯監視システムなどの対策も十分に検討していきたいと考えている。また、中学校と高校が同時に単独で活動できるスペースの確保を前提として、現在国が進めようとしている部活動の地域移行の動きなども見ながら、設置する部活動を検討していく予定である。
- また、通学にかかるスクールバスについては、市内の各地域からジオアリーナまで直行するルートを検討している。この図は7つのルート案の図となっているが、さらにこのルート案について検討を進めるとともに、運行の利便性をできるだけ向上して、保護者による車での送迎をできるだけ減らして通学の安全性を高めていきたいと考えている。これはこの再編準備委員会の組織図である。今後、各専門部会等を開催させていただくので、そこでのご協議をよろしくお願ひしたい。
- 最後に、今後の建設のスケジュールだが、校舎の建設につきましては、今年度から基本設計、実施設計と進めて、工事を経て、令和9年度の開校を目指しているところである。これで、資料7の説明について終わりとしていただきたい。
- もう少し説明をさせていただきたい。昨年度の再編準備委員会ではただいま説明させていただいた主な内容について検討を進めてきた。この検討状況等については昨年市民説明会や保護者対象の説明会、3中学校及び勝山高校の生徒会の生徒と語る会、また中学校や勝山高校の先生方に対する説

明などを順次開催して、それぞれさまざまなご意見やご要望等をいただいた。本日の資料では資料8になるが、今年の1月から2月にかけて開催した勝山市の子ども子育て保護者説明会においていただいた意見、それからその折にさせていただいたアンケートの集計結果、また資料9だが、勝山市立中学校建設基本計画（案）に対するパブリックコメントの結果を配布させていただいている。パブリックコメントの結果では、賛成の立場からは基本計画案に記載した今後の勝山の教育の方向性や新中学校が目指す教育等についてご理解とご指示をいただいている、また反対の立場からのご意見はこの再編計画が策定されるまでの経緯に触れるものや、新中学校を勝山高校に建設することを凍結してほしいというもの、また基本計画案の教育内容や教育環境施設整備に関するものをいただいている。特に新中学校の建設場所の凍結に関する意見については先ほども説明させていただいたが、これまで長年の協議や検討を踏まえて再編計画の策定に至っていることや、関連の予算についても市議会でお認めをいただき計画を進めてきている状況であることから、今後も再編計画を推進していくという所存である。また、教育内容や施設の整備等に関するご意見については、今後の再編準備委員会での協議に反映させていただいて、さまざまなご心配などがなくなるように検討し、具体的な案を市民の皆様にお示ししていきたいと考えている。また、子ども子育て保護者説明会においては反対のご意見もあったが、概ね基本計画案を前向きに捉えていただいている意見を多く頂戴した。あわせて新中学校の教育や生徒への支援の内容などについてご質問やご要望等をいただき、保護者の皆様のお考えやご心配されていることをさらに把握することができたので、パブリックコメントの意見と合わせて、今後の検討に生かしていきたいと考えている。大変長くなったが、新しい委員の皆様もいらっしゃいますので、これまでの経緯など時間をいただいで説明をさせていただきました。関係の資料等については、今後お時間があるときにお目通しいただきたい。説明は、以上。よろしくお願ひしたい。

委員長 ・ただいまの説明を聞いて、ご質問やご意見はどうか。今日の会議のメインで今までの経緯の説明について、特に今回から委員になられた方々とか、もう少し聞きたいとか、説明がほしいとかいう部分はないか。

（各専門部会について）

委員長 ・では次に移らせていただいでよろしいか。各専門部会について事務局の方から説明をお願いしたい。

事務局 ・それでは専門部会についてご説明をさせていただく。各専門部の役目についてご説明をさせていただく。資料1をご覧ください。それぞれの委員の皆様方の右の方に4つの部会について丸がついている。それぞれの部会に所属をしていただきたいという意味で、ご自身がどの部会に所属をされることになっているかということをご確認してほしい。それぞれの専門部会長には冒頭お決めにいただいたが、この部会長の方々を中心に、それぞれの立場から活発なご議論を進めていただきたいと考えている。続いて、資料4をご覧ください。資料3に示した準備委員会の条例の別表をもとに、各部会において令和9年度に協議いただきたい事項をまとめたものである。ゴシックにしてあるのは、令和4年度から協議をしている内容で、斜めのゴシックについては、令和5年度に協議をしたいと考えている内容である。あくまでも案なので、今後の協議を進めていく中で追加や

修正も出てくるものと考えている。新たな事項が生じる場合については、その他必要な事項として検討を進めていきたいと思っている。

- 委員の皆様方に具体的なイメージを持っていただくために、各部会の協議事項について一つ二つ紹介させていただきたい。まず総務部会だが、そこに書き上げたところだと2番のところに学校の名称と書いてある。学校の名称についてご議論いただきたいと思いますと思うが、合わせて、資料8の6ページをご覧ください。アンケートの結果でオレンジ色の横の棒グラフが書かれた資料。この事前のアンケートの中で新中学校の校名、校章は生徒をはじめ市民に公募するというような問いに対して良いと思うと答えておられる方が57.4%ある。このようなデータを参考にしてどのように校名を決めていくか、どういう学校の名前にするかということのもう一つ前の前提としてどうやって決めるかというあたりから議論をしていただきたいと思います。校名はその後で、校章を決めたり、校旗を決めたりとか、あるいは校歌を決めたりというような中でそのおおもとなるので、できるだけ早めに決めていかなくてはいけないものだと考えている。次に学校運営部会、資料4でみるといくつかあるが、そこに書いたように学校の時間割とか年間計画とか先の説明にあったが特色ある教育をどのようにしていくのかといった内容について協議をいただくということになる。3中学校は連携を強めようということですのですでに動いておられるので、統合をしたときに子ども達が混乱しないようにある程度先を見据えて改善をしていく改革をしていくということのご議論をお願いしたいと考えている。次にPTA部会は、22番から27番までにその項目を挙げてあるが、これも教育長の説明にあった通り、特にスクールバスの問題についてご議論をいただきたいと思います。スクールバスをどうするかということだけでなく、それに伴って徒歩あるいは自転車通学とかバス通学とか、こういった通学方法をどのようにしていくのか、あるいは通学路をどのように決めていくのかについてご議論をいただきたいと思います。最後の施設整備部会については、新校舎建設について昨年度からご議論をいただいているところで、現在プロポーザル方式による業者選定作業が進行しているところである。この後、その業者が決定すると決定した業者の提案をもとに基本設計、実施設計というふうに進むが、その中に、より良い施設はどうあるべきかということでご意見を頂戴したいと考えている。以上、各部会の協議事項の一例を紹介したが、皆様方の活発なご意見をもとにより良い学校を作っていきたいと考えている。ご協力をよろしくお願いしたい。

委員長 ・今の説明をお聞ききして、ご質問やご意見はどうか。これも特にないか。今年度は準備委員会、各専門部会が、今ご説明のあったゴシック体の部分を軸に議論が進むということ。それぞれの部会では重要な項目もいくつも出てきたかと思うが、ぜひ積極的な活発なご議論をお願いしたい。

委員長 ・レジュメに沿うと、次のその他ということになるが、特に事務局としては、以上ということでもよろしいか。了解した。せっかく皆さんお忙しい中來られていると思うので、皆様から一言ずつ今のお気持ちとか頭の中にあることを一言でも自己紹介を兼ねていただけたらと思う。順番に一言いただけたらと思う。自己紹介を兼ねながらよろしくお願いしたい。

(各委員から一言)

委員1 ・この中学校再編に関しては、今まであまり自分のこととして考えてこなかったもので、今日初めてこの状況についてお話を伺って、まだ私としては皆

さんの前でご意見を申し上げるような内容はないので、今後これから中身をきちっと勉強させていただいて、話させていただきたいと考えている。よろしくお願ひしたい。

- 委員 2 ・平成 20 数年くらいで小学校の再編が検討された頃、保育園の保護者としていろいろな会に出ていた記憶がある。ただ、それが延びて自分の子どもが高校生になって実際中学校再編となると自分ごとではなくなってきたのが正直なところ。ここまでいろいろ考えられている。知らなかったというのが正直なところである。こういった席に委員として任命を受けたので、いろいろ考えながら今後勉強しながら意見を出していきたいと思う。
- 委員 3 ・部会長のリードの下、活発な議論で P T A 部会に属して、特にバスの運営方法とかを検討してきた。方針の見えるところまで来て、今年度はバトンタッチという形なのかなと思っている。今年は総務部会と施設整備部会という形で、また新たな気持ちで頑張っていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。
- 委員 4 ・昨年度に引き続きということになるが、賛成意見、反対意見を含めて P T A の会員のご意見をこちらで話させていただきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。
- 委員 5 ・再編の中学校ということで、子どもたちのためにより良い中学校になれるように、皆さんのご意見を聞きながら、作っていききたいと思う。よろしくお願ひしたい。
- 委員 6 ・今年度から初めてこの会員に入ったので、また勉強して、子ども達のためにより良い環境でいけるような意見を出しながらいききたいと思う。よろしくお願ひしたい。
- 委員 7 ・今回初めてだが、実際令和 9 年 4 月となると、小学校の子どもがちょうど中学 3 年生のときに変わるということになると思う。正直、今は不安しかない状況なので、これから子ども達が安全に通える学校になれるように、自分も頑張りたいと思う。よろしくお願ひしたい。
- 委員 8 ・私自身、あまり深く考えていなかったが、今日の話聞いていて感じたのは、個人的な意見だが、やはり今これから勝山は恐竜であったりとか、街の開発がどんどん進んでいて、ものすごくチャンスも迎えている街ではないかなというところでこの中高一貫の教育というものは僕は聞いたことがなくて、他県とか日本の他にも前例があるのかどうか分からないが、こういった特色をしっかり生かして今人が減っているという状況だが、これを機に、勝山に来たいなあ住みたいなあと思える人が増えるようなそういう街づくりであったりとか、教育というところを目指していただければと思う。一緒に皆さん頑張っていきましょう。よろしくお願ひしたい。
- 委員 9 ・今年度初めてのことで、いろいろなことがあって保護者として不安なことや、意見があるかもしれないので、勉強をさせていただいて、進めさせていただきたい。よろしくお願ひしたい。
- 委員 10 ・小学生が将来どのような学びをしていくのか、そういった大事な問題に直面しているということで、よりよい新中学校はどうあるべきかということを生懸命真剣に考えてしっかり発言していきたいと考えている。どうぞ、よろしくお願ひしたい。
- 委員 11 ・昨年に引き続き委員をさせていただくが、いよいよ動かなくてはいけない。そういう言い方はいけないかもしれないが、本年度より計画に基づいて探究的な学習とかキャリア教育の時間を増やして、新しい中学校に向け

- て4年間あるが、力をどんどんつけていってほしいなということで、また来年になれば違う分野にもなると思うが、そういうことで新中学校に向けてそれぞれの学校でも取り組んでいくところ。勝山の小学生が夢と希望を持って進んでいける中学校にしたいと思う。また、いろいろなことで意見を言わせていただこうと思う。よろしくお願ひしたい。
- 委員 12 ・毎日子どもたちの顔を見ていて、とても元気そうな姿だったり、ちょっと悩んでいるなという顔だったり、いろいろな顔が見えて小学校とはまた違うんだなと思いながら毎日勤務をしている。令和9年に立ち上がるこの新しい中学校が、それを目の前にして市民の方、皆さんがいい中学校できたな、ここで頑張れやと言ってもらえるようなスタートを切れるといいなと、つくづく思っている。よろしくお願ひしたい。
- 委員 13 ・新しい中学校にも愛着を持てるように、これから頑張っていきたいと思っ
ているし、お母さん方がおっしゃる不安というのを感じてきた。だんだん明確になってくるにあたり、逆にワクワク感というか、新しい中学校を私たちが手がけることができるというそのワクワク感は感じている。不安を払拭できるように、これから3中学校が協力していろんなことを擦り合わせていくし、新しい中学校の出発に向けて頑張っ
て準備をしていきたいと思う。うまく意見が言えるかどうかわからないが、よろしくお願ひしたい。
- 委員 14 ・勝山高校は昨年度、探究特進科を1クラス新設して、普通科ともども探究特進科と合わせて探究活動に力を入れた教育課程を編成して、学校の魅力化に取り組んでいる。本年度は幸いにして、定員通りの生徒数が入学に至った。長年定員割れが続いていた状態から少しずつ魅力感が認めていただいているのかなという気持ちを持っているが、いろいろお話を伺うと、まだ学校での活動は何をやっているのかあまりよく伝わっていないということも伺っている。そういう発信をどんどんしていきたいと思っている。それと同時に、地域の皆様、保護者の皆様、中学生の皆さんに愛される選ばれる学校になるように、職員一同頑張っ
ていきたいと思う。よろしくお願ひしたい。
- 委員 15 ・保護者会代表として、ご家庭の方は再編に関してどこまでご意見を持っ
ていらっしゃるかわからないが、ご意見を聞いてお伝えできればいいなと思っている。再編計画については、正直、進んでいるな、決まっていることが多いなというのが印象で、今からの意見というのは正直大きな流れの部分のところにはあまり影響してこないのかなと思うので、具体性のある実際に設置されていく中でどういったふうにできるのかということを議論していきたいということと、保護者が抱えている課題ということと、子どもたちの学校面での教育内容というのは多分別なところにあっ
て、それぞれの議論が必要かなと思ったので、そういったところもご意見を言わせていただければいいなと思っている。よろしくお願ひしたい。
- 委員 16 ・今年度初めてということで、この委員会に携わらせていただくが、子どもが大学受験を迎える年になった。大学教育の方も本当に目まぐるしく変わっ
てきていて、地域課題とかIT化もそうだが、ずいぶん変わってきて、大学受験から小学校の子どもの中学校の再編まで、いろいろな変わりゆく社会の中で、保護者として今まで本当にこんなことを言うのはすごい大変失礼なことですがこの魅力のある学校というところがどういうものなのかなというところを考えていく上ですごくイメージがあまり湧かなかっ
たのが現実である。第三者の者が、こうやって委員会に携わらせていただ

くので、せつかくの機会だし、一保護者として本当にいろいろ勉強しながら、魅力のある中学校になって、高校の進学の時にもぜひ勝山高校を子どもたちに行ったらどうとアドバイスできるようになりたいと思う。勉強させていただく。よろしくお願ひしたい。

委員 17

・初めてということで、思い切った意見を言えるように頑張っていきたい。中高一貫で教育等々当然すごいことだと思うが自分がスポーツをやっていたということもあって、スポーツ地域移行等々でいろいろ大変かと思うが、やはり勝山で運動神経のいい子、バドミントンしかり、自分の代で言えばバレーボール等々いろいろスポーツ盛んな市だということでもっとアピールしていけたらいいかなと思うし、実は市外の高校に行ってスポーツをやりたいということで勝山では無理で福井市に行った。これが勝山でスポーツがいろいろ盛んであれば当然勝山に残って、高校の部活で頑張るなという子をもっともって出てくると思うので、教育は当然なのだが、スポーツのほうも置き去りにならないようにいろいろ意見を進めていきたいなと思っている。お願ひしたい。

委員長

・皆様のご意見とかお話をされる姿を見て非常に頼もしくとか、自分の気持ちもだんだん熱くなってきた部分がある。この自己紹介を一番最初にすればよかったなと反省をしている。皆さんの全ての言葉を拾えるわけではないが、聞いていて印象に残った言葉がいくつかあって、不安という言葉が何人かの方々から出ていたと思う。この不安というのは本当に正直なお気持ちで、誰しも持っている部分かなと思う。一つは途中でも話があったが、姿がだんだん見えてくると不安がだんだんなくなっていくという部分があるかなと思うので、まさしく先ほどご説明のあったそれぞれの専門部会でいろいろな項目について議論が進んでいけばだんだん不安も減るのかなと思うし、その不安な気持ちをお伝えいただかないとよりいいものはできていかないと思うので、遠慮なく感じられたこととか、不安な気持ちは出していただいた方がいいのかなと思う。1年目だからよくわからないから発言しないのではなくて、1年目だからこそ感じる違和感とか不安とかをどんどんと出していただくことによって、よりいいものができていくと思うので、再編の経験から言っても、そういうご意見をいただく中で、よりいいものができ上がってきたなと思っているので、ぜひ遠慮なくぶつけていただいた方がいいかなと思っている。そして夢と希望という言葉もいい言葉だったなと思うし、いい中学校を作るためにも意見を言いたいとあったがいい中学校とは何なのかという一方で、魅力ある学校とは何なのかという言葉もあったと思う。具体的話をするとだんだんとこんな名前がいいとか、こういうものいいとか、そちらに走ってしまうが、たえず原点としてはいい学校とは何だろうとか、魅力って何だろうということを中心点に置きながらスタートに置きながら、その上で手段としての校名であるとかいろいろなものが決まってくるといいのかなと感じた。私も勝山高校の定員が埋まったことが本当に嬉しくて、定員の担当もずっと教育委員会で長らくやってきた覚えがあるが、勝山がなかなか埋まらないということで、非常に担当としても心配していたところだが、そういう意味でも活気が出てきてよかったなと思っている。大学も変わっているという話があったが、またそれは別の機会があったら、お話をさせていただきたいと思う。スポーツの話もよかったなと思っている。勝山がチャンスだというあの言葉が、やっぱり一番印象的でよかったなと思っている。話の中に

住みたい街という言葉があったかと思うが、全国のいろいろな学校の再編をしている方が再編でいろいろとデータを取ったときに、移住をするとき、違う街に住むときにその街を選ぶ項目、何を見てその街に決めたのかというとは実は教育が非常に上にある。住みやすいとかではなくて、どんな教育が展開されているか。まさしくこの勝山の中学校再編の結果、どんな教育が展開されるのかという、そこが福井に行こうと福井に行くなら勝山が一番いいだろうというふう選ばれていくのだろうと思うし、再編のそういうことでいろいろな人が入ってくると経済的な効果もまた非常に大きいというデータもある。そういうことも含めていろいろなご意見が出てきたかと思うので、今後も忌憚のないご意見をどんどんといただけたらというふうに、今皆様のお話を伺いながら感じたところ。勝山というと若いときはスキーに来たりとか平泉寺に寄せていただいたりとかという思いもあったし、恐竜博物館ができるそのオープニングのときに動員としてジャンパーを着ていらっしやいとか、こちらですとかいう案内係をした覚えもある。それ以来勝山というのがだんだん身近な存在になってきて、実は高校の教員をしているときにはバレー部の顧問をしていて勝山高校に練習試合に来て、そのとき強くてなかなか勝てないチームだったということ走馬灯のように蘇ってきたところだが、勝山っていい街だなというのが僕の印象である。その中で誕生から18歳成人まで市民総がかりで切れ目なく支援するという、これって素敵だなと思って本当に勝山市ならそれができるのではないかなという思いを改めて言葉を見て感じた次第である。もう一点勝山の良さで言うと、私は昨年から中東のヨルダンという国の教育支援に日本のチームの一員として入っていて、その向こうの小学校の校長先生とか教育省の人たちの支援に入っているが、その教育省の局長とかの人たちが昨年、福井へ研修に来られた。そのときせっかくだから学校を見てもらおうと思って何校か見てもらおうと思って4校ほど見てもらった。そのうちの一つに成器南小学校を見てもらった。気に入られて、校長室にお子さんが描いた絵が飾ってあったりとか、先生たちと子ども達の間が近いとか、授業の様子を見て回っていて子どもたちがなんて熱心に一生懸命やっているんだとか、クラブ活動も見てもらったが、みんなクラブ活動のときに子どもたちが一生懸命クラブに取り組んでいる姿とか見て、感心、感動されて帰っていったのを思い出したので、ここでご紹介をさせていただく。あともう一点高志の校長のときに入学式で私が言った言葉があって、それをご紹介させていただく。入学式で新入生、そして保護者の方、在校生もいたので在校生にも聞こえるように言ったのだが、新入生の高校生がいろいろな中学校から高志高校へ来たとは実は思っていないと言った。20年30年後、世の中で活躍している世の中を支えている子たちが、タイムマシンに乗って制服を着てここに現れたと高志高校として将来に戻ったときに、そのときよりも一層活躍できるような教育を3年間みんなに提供したいと、それが我々の務めだと思っているという話をしたことがある。多分、この勝山の中学校も同じで、勝山の中学校が今生まれていない子もいずれ勝山の中学校に入ってくるから、しかもその子たちはいずれ大人になって、勝山の街を皆さんのように支えていくことになるんだろうと思うので、そういう観点も入れてこの中学校がどうなるといいのかという議論ができるといいのかなと思った次第である。ぜひ専門部会、そしてこの大きな会議でどんどんと意見を出していただいて、叩いていけたらと

思う。時代は修正主義という。昔は正解主義だった。20世紀のときは、右肩上がりの成長で、工業的に同じ製品をよりいい製品を同じように作らないといけないというので、言われたことをちゃんとやれという教育がされてきた時代です。今は全然違って昔のことを表すと、ジグソーパズル型学力といって、ジグソーパズルのピースのように全てのピースを覚えなさいとか、そうじゃないと絵は完成しないぞみたいなそういう教育、みんな同じことをやれと違うことをやられるといい製品ができないから困ってしまう。その教育はすでにずっと前に終わっていて、まだ残っているところはあるかもしれないが、これからはみんな一人一人違うということが前提で、その中で正解主義じゃなくて納得解、正解じゃなくて納得解を作る時代になっている。いろいろな皆さんのご意見を聞きながら多数決で多い数の意見にするのではなくて、皆さんの意見を聞いて皆さんが納得する答えを作る。そういう時代に入っているのだから、そのためにも皆さんどんどん意見を出していただいて、いい納得解ができるようなものになっていくといいなと思う。では、事務局にお返す。

事務局 ・初回ということで、皆さんなかなかご意見は難しかったと思うが、自己紹介の方で回っていただいているいろいろな皆さんの今のお気持ちとか考えを聞くことができ、本当によかったと思う。これからそれぞれの部会に分かれて活発なご意見とか準備委員会も何回かさせていただくことになると思うので、ぜひご意見をいただけるようお願いしたい。それでは以上で第1回勝山市立中学校再編準備委員会を終了させていただきたい。今後また各専門部会の方の開催をしていくので、関係の委員の皆様には後日またご案内の方を送付させていただく流れとなると思うので、よろしく願いしたい。本日はお忙しい中、ありがとうございました。お気をつけてお帰りのほどを。

資料1. 令和5年度勝山市立中学校再編準備委員会（専門部会）委員名簿

資料2. 勝山市立中学校再編計画準備委員会開催要綱（案）

資料3. 勝山市立中学校再編計画準備委員会条例

資料4. 令和5年度準備委員会（専門部会）検討・協議事項（案）

資料5. 勝山市立中学校再編計画+資料

資料6. 勝山市立中学校建設基本計画

資料7. 勝山市立中学校再編について（これまでの経緯および検討内容）

資料8. 勝山市の子ども子育て保護者説明会での内容について

資料9. 勝山市立中学校建設基本計画（案）へのパブリックコメント結果一覧